

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 ENTOWA	代表者	副島 孝嗣	法人・事業所の特徴	利用者様お一人お一人が、社会・地域の中の一員という事を実感していただけるように、人と人、そして地域との関わりを大切にしております。 地域の方が気軽に足を運ぶ事のできる事業運営を行い、ぬくもりを感じられる事業所を目指していきます。
事業所名	エフ・ステージ桜馬場	管理者	深山 さつき		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	人	1人	人	3人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	その日のカンファレンスの開催時刻を設定し、その時間に職員が集まれるよう業務を調整する。	昼礼で開催時刻を決定し、職員へ周知することでその時間までにやるべき業務を実施している。可能な限りカンファレンスを開催できていた。	開催時刻を設定し、職員へ周知することで、業務調整や可能な限りのカンファレンスの開催を行っており、情報共有に結びついている。時間の確保が難しい場合はカンファレンスノートの活用の継続などで情報共有を行っていただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 勤務形態に関わらず、全職員の利用者、業務の情報収集に対する意識を高める。 連絡ノートやカンファレンスの議事録を確認させることで職員間での情報共有を行い、利用者や業務内容を周知させる。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所内の植栽を増やし、ご利用者様にとって居心地の良い空間作りをおこなう。	行事ごとや庭に生った花をフロアに置き、利用者様に季節を感じてもらおうことができた。	玄関の花壇の手入れやベンチの設置、近隣の環境整備にも努められており利用者にとって居心地の良い空間を作ると共に地域の方が立ち寄り易い工夫をされている。	<ul style="list-style-type: none"> パーテーション等を利用し、入浴する際の更衣、静養時などのプライバシーを守る空間作りを行う。
C. 事業所と地域のかかわり	資源ごみ回収など地域の活動に参加し、地域への貢献度を上げる。 ・地域にある資源のリストを作成し、目的に応じて繋がりが持てるようにする。 ・地域包括支援センターや自治会、民生員などを通じて地域の資源発掘をおこなう。	自治会の資源ごみ回収が終了し、現在は行っていない。 ペットボトルキャップの回収を行い地域との協働を図ることができた。	事業所は地域の行事へ協力いただいておりますが、地域の方がそのことを認識しているかはわかりません。 施設は地域の方から広く周知されている印象を感じます。小規模多機能型居宅介護というサービスについては理解が不十分であるため、サロン等の公民館活動や自治会など様々な機会を通してサービスについて地域住民の理解向上など周知していければと思います。	<ul style="list-style-type: none"> サロンや公民館活動、自治会活動への参加を行う。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>在宅生活を支えるうえでご家族とも情報共有を行い、チームとしてケアを実践していく。 送迎中など地域の方々との交流や地域活動を通じて、介護事業所であることの認識を高める</p>	<p>在宅生活を継続するために、地域の方々や地域包括支援センターと連携を取り、ケア会議を開催することができた。</p>	<p>利用者のケア会議を開催し、様々な関係機関や地域住民に参加していただき、情報共有を行い、介護と医療の連携、協働の機会があり、ネットワークの構築、他職種連携に繋がっていたと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動（外出活動）を増やしていく。 新大工商店街の散策やドライブ、近隣の散歩を行う。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>感染症予防に努めながら、運営推進会議開催を行う。 事業所から決まった人員の参加だけでなく、介護員や専門職の参加を行っていく。</p>	<p>今年度6回の運営推進会議を定期開催できた。介護職だけでなく作業療法士の参加もできた。</p>	<p>今年度は、対面での定期開催ができており事業所の取り組みや地域からの意見を直接伺える機会ができた。介護士や作業療法士の出席もあり利用者の様子や事業所での取り組みについても伺うことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議等で、自治会、民生委員から地域住民の情報収集を行う。 ・事例紹介を行う。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>BCP（事業継続計画）の作成に努める。 AEDの実施方法や、消火器の使用方法を訓練にて学ぶ。</p>	<p>年2回の消防訓練にて、水消火器を使用した消火訓練、及び救急救命の訓練ができた。</p>	<p>施設内での訓練の状況やその問題点、地域や関係機関に協力頂きたい事なども継続的に発信し、地域との協力体制の構築にも繋がるよう働きかけていただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練へ地域の方の参加を促す。 ・運営推進会議にて防災対策の説明を行う。